

卒業する、いま

新しい一歩を踏み出す人、仲間を送り出す人——
幼稚園から大学みなさんに、いまの想いを聞きました。

幼稚園

Kindergarten

幼稚園教諭 矢部 尚子

卒園する大切な皆さんへ

ご卒園おめでとうございます。年少組の4月。お家の方と離れることにドキドキして涙する方もいましたね。その姿も愛おしく「大丈夫よ」と受け止めたことを思い出します。あれから積み木の船に乗って恐竜を探す旅をしたり、ロボットカミイの劇ごっこをしたりと、皆さんの好きな遊びを幾つしたことでしょう！どれも真剣で愉快でした。時には友だちと喧嘩をしたり、悔しい思いもしましたね。私も共に向き合いながら、その必死な姿に心を動かされました。

そしてキャンプや運動会、大切にささげたページェント等々。そのどれもにドラマがあり、多くの経験を重ねて皆さんは大きくなりましたね。振り返るといつも神さまが共に歩き、助けてくださいました。



「恐れるな、私があなたと共にいる。たじろぐな、私があなたの神である。私はあなを奮い立たせ、助け私の勝利の右手で支える」(イザヤ41:10)
この先も神さまを信じ、神さまと共に豊かな時を歩まれますようにいつもお祈りしています。



幼稚園保護者会会長 三澤 志保

卒園に寄せて

たくさんの思い出ができた幼稚園を卒園する日が近づいてきました。この特別な瞬間を前に、さまざまな思いが浮かんできます。

ドキドキしながら初めての一步を踏み出した入園式。先生方やお友達とふれあう中で、笑ったり、泣いたり、

お友達を思いやり、神様に感謝することの大切さを学び、日々成長していく姿を見守ることができたことは、家族にとって大きな喜びでした。

普段見逃してしまうようなことの中に様々な発見があり、何が大切なのか、という感覚をこの幼児期に養っていたように感じます。「ありがとう」や「ごめんね」といった言葉を自然に口にする姿を見て、改めてその大切さを実感しました。

どんな時でも子どもたちに寄り添ってくださる先生方、一丸となって協力してくださった保護者のみなさま、保育に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

これからの初等部生活に向けて、少しずつ成長していく姿を見守りながら、幼稚園で学んだことを胸に、自分自身を信じ、他者を思いやる心を持った優しい人間に成長することを願っております。



初等部教諭 浦上 動太

自分に与えられた賜物とは

突然ですが、皆さんは「青山学院初等部で学んだことは何ですか」と問われたら何と答えますか？私が、この2年間過ごした中で1番学んだことは「賜物」についてです。この2年間、「賜物を活かすこと」が学年目標に掲げられていました。聖書の中にも「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用いて互いに仕えなさい。」（1ペトロ4：10）とあるように、私たちはいつも神様から与えられた自分の賜物を周りの人のためにどのように使うかを考えてきました。皆さんは、この初等部で、たくさんの人や自然と出会い、初等部でしか味わえない経験をしてきたはずです。そしてどんな場面でも自分に与えられた賜物を活かし、力を発揮しようとしてきましたね。卒業を機に、自分に与えられた賜物を見つめ直すとともに、更に磨き続け、今後もサーバント・リーダーとして活躍していくことを心から祈っています。





初等部6年 渡辺 愛佳

地の塩、世の光

私は5年生の3月に、学院のフィリピン訪問プログラムに参加した。そこで私は何より、「人々の優しさや明るさ」を感じた。みんな、貧困の生活の中で家族のために一生懸命に働き、私達とも笑顔で仲良く遊んでくれる子ども達なのだ。この様な人々に囲まれた7日間は、本当に幸せだった。まさに人々は「地の塩」だった。

その後、私達宗教プロジェクトを中心に「主は共におられます」というパネルを、初等部生の手形を並べて作った。一緒にフィリピンに行った仲間のアイデアだ。この作品は、青山学院全体やフィリピンの人々の心のエネルギーになるように全校で作り上げた作品であり、学院の「希望の未来図コンテスト」で「世の光賞」を受賞することができた。

私は6年生になり、「自分の本当の気持ち」について考えるうちに「地の塩、世の光」として心から行動をすることの嬉しさを改めて実感している。今後の日々の生活でも、フィリピンの人々やパネルを作った初等部のみんなのような行動をし、頼られる大人に、そして「地の塩、世の光」になれるよう過ごしていきたい。



中等部教諭 野間口 カリン

弱いときこそ

3年生のみなさんが中等部に入学したのは、パンデミックの影響が残っていた2022年4月でした。マスクをつけて入学式に臨み、その後も1年以上黙食が続きましたね。そのような中で中学生となったみなさんは、いろいろなことが決して容易にはいかなかったと思います。それでも前向きに中等部生活を楽しんでいるみなさんと日々を重ねていくうちに、私はみなさんの素直さや優しさ、あたたかさによくふれてきました。76期の担任の一人であったことを私はとてもうれしく、また誇りに思います。

みなさんの卒業にあたって私は「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。」(IIコリント12:9 新共同訳)を贈ります。

キリストの恵みと神の力は、人間の弱さの中でこそ発揮されるということ。2000年前のベツレヘムに「強さ」の象徴を一つも持たないで誕生し、「小ささ」や「弱さ」の極みを生き抜いたイエス。私たちがそれぞれの人生において、困難を感じ、弱さに打ちひしがれそうなときこそ、自分の力によってではなく神さまの力によって生かされていきたいと願います。

ご卒業おめでとうございます。

中等部3年 中田まき

自然と共に

私は3年生の夏休みに緑蔭キャンプに参加しました。避暑地に行き、聖書を学ぶことで、夏を涼しく穏やかに過ごしたいという思いからです。緑蔭キャンプでは、自然にまつわる聖書の教を学びました。山登りをしたり、川辺でご飯を食べたり、都市では味わうことのできない自然と実際に触れ合うことで、心が安らぎました。

神様が与えてくださったこの自然。元来私たちの住んでいるこの場所も全て緑だったのです。自然は私たち人間の所有物ではなく、神様のものです。しかし、人間が自分たちの利益だけを考えて、勝手に自然を壊してしまいました。自然は人間が好きなように使っていいものではない、このことを緑蔭キャンプに参加し学びました。今まで私自身も自然に悪影響を及ぼすような、身勝手な行動から目を背けてしまっていました。自然と人間がどうすれば共存できるか、これからは思案していきたいです。





(PS講堂 3年席からの眺め)

高等部教諭 井川 比奈子

すべてがきっと、糧になる

初めて高等部に来た時、「クラス最高！部活の仲間大好き！行事バンザイ！」と、友人とともに学校生活を全力で楽しんでいる生徒たちの姿に驚きました。しかし同時に、その雰囲気になじめず、居心地が悪そうにしている姿もありました。皆さんはどちらの姿に自分を重ねるでしょうか。

学校生活が楽しかった人へ。あなたが過ごした時間は、神さまからのプレゼントです。充実した日々を送ることができたのはなぜか、そのために自分は何をしたか、誰かがしてくれたことは何か。その一つ一つを胸に刻み、大切にしてください。

学校生活に苦しさを覚えていた人へ。その苦しみも神さまからのプレゼントだったのだと思える時が、いつかきっと来るはずです。あなたの悲しみや痛みは前に進むための力となり、誰かの涙に寄り添い、心を慰める助けとなります。

「私の魂よ、主をたたえよ。そのすべての計らいを忘れるな。」
(詩編103：2)

高等部ですごした日々のすべてを糧として、主にあって豊かな実を結ぶ人生を送ることができますように。

高等部3年 荒川 由友奈

高等部での学び

3年間の高等部生活は、生徒主体の良さで溢れていたと思います。特にそれを実感したのは、集会委員長として6月のミュージックフェスティバルを企画、運営したときでした。全校生徒が楽しめる行事を目指し、仲間とともにアイデアを出し合い、何度も話し合いを重ねました。当日、トランシーバーのイヤホン越しに聞こえた全校生徒の歓声とペンライトが音楽に合わせて揺れている景色は夢のようでした。この行事をよりよいものにするために新たなことに挑戦し、一人ひとりの意見を実現できたのも、生徒主体の行事運営だったからだと思います。この経験は、青山学院のモットーである「地の塩、世の光」に通じるものであり、私自身が他者のために尽くすことの意味を教えてくださいました。これからもここで学んだ価値観を大切に、互いを尊重し、神様の愛を分かち合える存在であり続けたいと思います。

卒業は一つの終わりであると同時に、新たな挑戦の始まりです。青山学院高等部での学びに感謝し、未来へと進んでいきたいと思います。3年間ありがとうございました。



国際政治経済学部教授 渡邊 千秋

卒業なさる皆さんへ

ご卒業おめでとうございます。

新たな人生のフェーズに進む皆さんに贈る言葉を書くこととなり、聖書の「放蕩息子のたとえ話」の場面を扱った絵画に触発されて書かれたH.ナウエン著『放蕩息子の帰郷』を思い出しました。

通常このたとえ話では、自分勝手に享楽を尽くし皆から見捨てられた息子が父の元に戻り、父が彼を喜んで許し迎え入れる部分に目がいきがちです。しかしナウエンは、何もしないのに父に認められる弟に嫉妬する兄にも着目し、自分の心のなかにもこの嫉妬深い兄がいることを見いだします。そして、羨みや嫉みをもつ弱い人間である自分を認めることで、それでも世に生かされているのだという気づきを得ています。

良いことも悪いことも起こりうる人生です。どうぞ皆さん、自分の力を信じて、一步一步進んでください。困難は自分を見つめ直す機会です。自分を大事になさってください。あなたはあなた。他の何者にも代えられない存在なのですから。





教育人間科学部 4年 清原 杏子

卒業する、いま



この大学4年間、楽しかったことも苦しかったことも数えきれない。しかし、確実に言えるのは、私は変えられたということである。それも、神様によって変えられたという自信がある。

親元を離れ、一人暮らしをし、教会へ行き、大学では心理学に熱中した。高校までは勉強も信仰生活も最低限出来れば良いと熱が入りきらなかった私にとって、この4年間はそれらに全力で向き合う日々であった。全力で向き合うことは決して楽ではなく、上には上がいる現実や、努力が報われないことの連続だった。人間関係の悩み、将来への不安、自分の能力不足に苦しむことも多かった。

それでも頑張り続けられたのは、教会や青山学院大学での学校生活を通じて、神様がいつもそばにいてくださると実感できたからである。この4年間で自分がどう変わったのかは、今の時点でははっきりと分からない。しかし、多くの困難を経験し、確実に何かが変わったと感じている。これから社会に出たとき、「あの時、神様はこのために私を変えてくださったのだ」と実感し、喜べる日が来ることを期待したい。